

日比の懸け橋を目指して—フィリピンを知る、伝える、行動する—

京都市立春日丘中学校
日本語指導担当 非常勤講師 中山美紀子

1. 実践の場の特徴と課題

JFC
(Japanese Filipino Children)
・地域の介護職員子弟
・滞日年数、日本語力、母語力様々
母国・日本の現状への理解不足
自分は何者？

2. 実践目標

母国の現状理解→行動へ
「両国につながる」自己肯定
自信と誇り
日本語のレベルアップ

3. 実践内容

フィリピン台風復興支援募金

生徒会と協働
①H26.11月～H27.1月
②H27.11月～H28.1月
③H28.12月より実施予定

① 勉強会

現地支援者 フィリピンコミュニティ 生徒会
知る・考える
話し合う
日本語教室
ミーティング
考える・話し合う

② 全校スピーチ

伝える

③ 募金

校内・地域・市中心部
行動する

結果と考察1

After	Before
フィリピンの人の助けになれた！	中学生の自分には何もできない
日本にいたからできた。	日本にいないから何もできない
知らない人もたくさん募金してくれた！	学校のみならず街の人が協力してくるか？

自信と自己有用感

2年連続の取り組み
思いや考えの深まり

結果と考察2

必要性 → フィリピンの現状を、人々の思いを伝えなければ！フィリピンにつながる私たちが！

練習・工夫 → 発音・聴取、読み、書写 (漢・カタ)

実行

日本語で話す力の向上

自信 → 人前で発表して話せる